

平成 27 年度活動助成 活動実績報告書

| | |
|-------|-------------------------|
| 団体名 | 一般社団法人 72 時間サバイバル教育協会 |
| 活動テーマ | 全国実施可能な汎用性のある減災プログラムの開発 |



災害現場で人命救助時に念頭に置かれるのが、72 時間を超えると生存率が極端に下がるといわれる「72 時間の壁」である。一般的に「防災訓練」と言えば、一時避難の訓練が多く、災害発生時の初動期を想定したものが多く。しかし現実には「ライフラインが寸断」、「自分の住んでいる集落が孤立」など救助が来るまでの 72 時間を生きなければならない。つまり一時避難してから救援が来るまでの時間をいかに生きるかが、減災を考える上では欠かせない。したがって「救援が来るまでの 72 時間をどう生きるか」に特化した、地域性や災害種別に応じた減災プログラム開発が必要と考えた。

前年度の助成により、各地の被災者にインタビューする中で主に 3 点の修正が必要と感じたが、それらを修正出来た。

①基本プログラムに加えて、地域に即したプログラムを提供する必要がある。

⇒地震や津波の想定地域での避難所だけでなく、土砂災害や雪害などでの孤立状態になった際にも、限られた環境と資源を利用して自助共助をしていく体験プログラムとして、より実践的なプログラムとなった。

②時期によりプログラムの変化が必要である。

⇒夏季と冬季にパイロットプログラムを開催することで、時期によって必要なものや心理状態、リスクなどが変わることを体感出来た。時期ごとのプログラムのねらいや重点目標が明確になった。

③防災グッズを使いこなす、避難時により快適な生活を出来るようになる必要がある。

⇒様々な道具を使ってみることで、本当に役に立つものの選別が出来た。備蓄されていたり、個人で持っていたも使えなかったりしたものを、使いこなすことが出来るようになる研修をプログラムに取り入れることが出来た。

本年度は、より実情に即した内容のプログラム開発に力を注ぎ、細かな企画作りと、終了したプログラムの振り返りをしっかり行うことで、毎回改善していくことが出来た。